

気体軸受研究会（第3種，主査 矢部 寛）：気体軸受研究会は，気体潤滑技術の基礎研究や応用開発に携わっている者，あるいは，気体軸受に興味をもっている者が気軽に集まって議論し，情報を交換する場として運営されている．本研究会は設置以来 21 年もの長きにわたって開催が続けられてきた．本年度は，委員数 53 名で，京都を開催場所とし，オブザーバーを含め毎回約 30 名が参加して 4 回の研究会を開催した．講演していただいたテーマは，気体潤滑の基礎から応用・開発まで幅広く，複合絞り型静圧空気軸受の安定化法（東京理科大 吉本成香），多孔質絞リエアスピンドルの回転精度の実験的解析（日本精工 野口昭治），スパイラル溝ジャーナル軸受の回転精度特性（京都大 矢部 寛），波形動圧ジャーナル軸受の動特性（NTN 古林卓嗣），永久磁石式磁気軸受併用によるエアスピンドルの高精度高剛性化（豊橋技科大 崔 新），ハイブリッド軸受式膨張タービン（日本酸素 弘川昌樹），X線露光装置におけるマスク・ウエハ間の空気膜によるマスク変形（東芝 内田憲男），分子オーダーの液体潤滑における膜厚離散化の実証と理論（鳥取大 松岡広成），26th Leeds-Lyon Symposium on Tribology の報告（大阪産大 林 和宏），などである．

平成 11 年 9 月の会合は気体軸受研究会の 100 回目の会合に当たるため，これを記念会合とし，『たかが気体潤滑，されど気体潤滑：21 世紀を目指して』（和歌山大 金子礼三），『気体軸受，この妙にして偉なもの』（高広工業 伊庭剛二），の 2 つの記念講演をお願いして，気体潤滑技術の流れのレビュー今後の展望について話していただいた．また，記念会合には OB 委員の方々 10 余名にも参加いただくことができ，懇親会を開催して旧新委員の親交を深めた．

次年度も今まで同様，温かく気軽に，そして実りある情報がより多く得られるような会となるよう運営を続けたいと思っている．